《専門教育科目》

科目名	教育原理			科目ナンバリング	5021208400
担当者氏名	岡本　洋之			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
教育を、歴史、社会、思想など多様な視点から検討し、教育と社会との関係や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《授業外学習》
学校教育はもとより、家庭教育、大人と子どもの関係、親と子の関係、地域社会と子どもの関係、子どもの遊び、子どもをめぐる生と死、子どもを取り巻く異文化と摩擦の問題、子どもの人権の問題、海外留学など、子どもに関する多岐にわたることがらに関心を広げ、活字情報等を摂取すること。

《テキスト》
授業中にプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》
毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》
教職教養　教育原理（教員採用試験情報研究会編、一ツ橋書店）

《備考》
グループワークを行う。また担当者は教員として高等学校勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
		主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のあり方と関連づけることができる。
		家族や社会による教育の歴史を理解している。
		子どもの権利と福祉について理解している。
		生涯学習の理念を理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	20%
レポート	60%
発表・実技	0%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	人間とは何だろう	オリエンテーション（授業概要及び評価に関する説明）、人間の特質と教育	教育に関する日常の思いの整理	90分
2	教育とは何だろう	教育の概念と本質	教育とは何か	90分
3	人間と教育の関係を考えよう	子どもの発達と教育	子どもの発達	90分
4	教育への理解を深めよう	教育の目的、形態と機能	教育の諸相	90分
5	主な西洋教育思想とその系譜を見よう①	子ども観の変遷、代表的思想家とその教育思想	中世西洋教育思想	90分
6	主な西洋教育思想とその系譜を見よう②	代表的思想家とその教育思想、教育思想と現代の教育	近代西洋教育思想	90分
7	公教育制度の成立と発展を見よう①	教育・学校の起源と歴史、近代公教育の誕生	近代学校教育の始まり	90分
8	公教育制度の成立と発展を見よう②	日本における明治期以前の教育、近代学校制度の成立	寺子屋以後の日本の教育	90分
9	教育への理解をいっそう深めよう	教育の内容と方法	たとえば水道方式等の概要	90分
10	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう①	戦前まで	戦前までの日本教育史概要	90分
11	日本における教育思想と教育方法の発展を見よう②	戦後	戦後日本教育史の流れ	90分
12	子どもの実態と教育の関係を考えよう①	教育における「ケア」	現在の子どもたちの様子	90分
13	子どもの実態と教育の関係を考えよう②	児童の福祉・保護と教育	教育と福祉の関係	90分
14	未来の教育への展望を探ろう	生涯学習	生涯学習とは何か	90分
15	本授業の総括	現代社会と教育、本授業の総括	これまでに扱った内容の整理	90分

《専門教育科目》

科目名	教育心理学			科目ナンバリング	5021208600
担当者氏名	大平　曜子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
教育心理学は教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自な理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程の基礎的知識を修得し、教育における心理学的領域の理解を通して学習活動を支える人間科学的な視点を養うことができる。授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、それぞれの専門領域の教育に応用する方法を修得する。

《授業外学習》
プリントに基づいて授業内容を整理する。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通す。
専門用語や関心を持った事項は詳しく調べておく。

《テキスト》
テキストは使用しない。 必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》
レポートはコメントを付して返却する。 疑問や質問には個別に回答すると共に、次回の授業で補足説明をして理解を確認する。

《参考図書》
『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著　ミネルヴァ書房 その他、適宜紹介する。

《備考》
グループワークを数回実施する。 毎回、授業終了時に「授業の振り返り」の記入し、提出することで参加状況を確認する。 授業担当者は、教職経験をもつ実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	発達の概念と発達理解の意義を理解し、教育の観点から各発達段階を理解し課題を見出すことができる。
		学習の概念を理解し、代表的学習理論から学習の考え方をまとめ、発表することができる。
		主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて説明できる。
		主体的な学習活動を支える学習指導法を専門科目と関連させて理解することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	10%
レポート	10%
発表・実技	0%
授業内課題	20%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、本授業受講の意味を確認する。	次週の授業内容の確認	45分
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。	配布プリントを読み理解する	60分
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の諸理論について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達を理解し、遺伝と環境などの関係因子を考える。	配布プリントを読み理解する	45分
5	発達の基礎理論（3）	発達の過程における段階的区分を理解し、各段階の発達内容や課題を確認する。	配布プリントを読み理解する	45分
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念を理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法について理解する。グループを形成し、評価観点を決定して相互評価の方法を理解する。 課題を確認し、課題の進め方を理解する	課題のための資料の収集	90分
9	学習の基礎理論（3）	記憶の種類と特徴、記憶と学習を理解する。	課題の作成	120分
10	学習の基礎理論（4）	動機づけとやる気、意欲と学習活動を理解し、動機づけを高める工夫を考える。	課題の作成	120分
11	教育評価（2）	自作の試験問題を相互に回答し、評価し合う。 測定と評価の実際を学ぶ。	配布プリントを読み理解する	45分
12	教育評価（3）	学力と知識と性格の測定と評価を理解する。自己調整学修やポートフォリオ評価やルーブリック評価などの意味と方法を確認する。	配布プリントを読み理解する	45分
13	学習指導法	発見学習、プログラム学習、グループ学習等、授業の最適化について理解する。	配布プリントを読み理解する	45分
14	教育における個と集団の理解	人格・性格、パーソナリティの形成、コミュニケーション能力と対人関係、教師が及ぼす影響力、「集団」のもつ促進機能、抑制機能についてわかる。	配布プリントを読み理解する	60分
15	教育における心理学の働きまとめ	教育相談、人間関係について考える。 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。	授業内容の整理試験対策	120分

《専門教育科目》

科目名	教育制度論			科目ナンバリング	5021208700
担当者氏名	岡田　広示			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。

《授業外学習》
・授業の前までに教科書の当該箇所に目を通しておく。
・授業の要点をまとめたノートを作成する。

《テキスト》
『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ７』（古田薫、山下晃一編著　ミネルヴァ書房）　必要に応じてプリントを配布する。

《学習状況・理解度の確認》
授業の終わりに提出するリアクションペーパーで理解度を把握し、補足や質問に対する回答を行う。 小テーマごとにミニテストを実施する。

《参考図書》
『解説教育六法』 三省堂 『図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』坂田 仰他、教育開発研究所

《備考》
education system

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規とその概要、教育行政の仕組みや学校制度について説明できる。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	20%
レポート	0%
発表・実技	5%
授業内課題	
その他（ ）	15%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	教育行政と教育制度の基礎知識	・教育制度を学ぶ意義を理解する。　・教育行政、教育制度の基本概念を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
3	憲法教育基本法制①教育に関する規定	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。　・教育基本法改正の背景とポイントを理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
4	憲法教育基本法制②教育基本法	・教育基本法の意義と内容を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
5	学校教育の基本	・学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
6	教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会	・文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。　・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
7	教育行政のしくみ②教育委員会	・教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。　・教育委員会制度の概要と意義を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
8	教育を受ける権利の保障	・教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
9	学校の組織と運営①チーム学校	・学校運営の基本原理とチーム学校の意義を理解する。　・学校評価について理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
10	学校の組織と運営②学校運営の管理	・学校運営におけるさまざまな管理を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
11	学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規	・学校と保護者・地域に関する法規と制度を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
12	教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領	・学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
13	学校運営と学校安全	・学校安全/学校保健の目的と必要性を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
14	児童生徒に関する法規	・就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。	テキスト予習 まとめノートの作	45分
15	児童生徒をめぐる様々な問題	・学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等についてグループワークを通して理解する。	学校における諸問題ついてレ	90分

《専門教育科目》

科目名	教育課程論			科目ナンバリング	5021208800
担当者氏名	岡田　広示			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
教育課程の構造と基礎的な編成原理、その意義、基準となる学習指導要領の内容と法的性格について理解を深め、学校の教育課程の管理と運営をカリキュラム・マネジメントの視点から考察する。事例を用いた学習、グループディスカッション等を通して、現代的課題についての考察と意見交換を行い、理解を深める。

《授業外学習》
講義のまとめノートを作成する。わからない用語を調べ、用語集を作成する。
指導案を作成し、実践の準備をする。

《テキスト》
『教育課程論・教育評価論』木村裕・古田薫（編著）、ミネルヴァ書房 文部科学省『中学校学習指導要領』。　文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』

《学習状況・理解度の確認》
毎回、授業終了時に提出する学習記録カードで理解度を確認し、コメントを付して返却する。次の授業で補足や質問に対する回答を行う。

《参考図書》
文部科学省『高等学校学習指導要領』

《備考》
必要に応じてグループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し、考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教育課程の構造と基礎的な編成原理について理解している。
		学習指導要領の内容と法的性格について理解している。学習指導要領の変遷とその背景について理解している。
		学校における教育課程の編成とカリキュラムマネジメントについて理解している。
		主体的・対話的で深い学びと授業の中でどのように実現していくかを理解している。
		社会に開かれた教育課程、教科等横断的教育課程について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	20%
レポート	0%
発表・実技	5%
授業内課題	
その他（ ）	15%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション 教育課程とは	・教育課程とは何か、教育課程の意義と必要性、法的位置づけについて理解を深める。	テキストの予習まとめノート、	45分
2	教育課程編成と教育目的・目標、学習指導要領の性質	・学校教育、各学校段階の目的・目標を知る。　・学習指導要領の法的位置づけや学校教育における役割を理解する。	テキストの予習まとめノート、	45分
3	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷①	・学力観、学習指導要領の変遷とその背景（戦後～1998年）を知る。	テキストの予習まとめノート、	45分
4	学習指導要領の意義と内容の歴史的変遷②	・学習指導要領の変遷とその背景（～2008年）を知る。	テキストの予習まとめノート、	45分
5	新学習指導要領の要点	・2017年学習指導要領の基本理念と改訂の方針、改訂の要点を知る。	テキストの予習まとめノート、	45分
6	学校教育における食に関する指導と保健指導	・学校における食に関する指導と保健指導の目的と計画の全体像について知る。　・食に関する指導と保健指導の指導計画の立て方を習得する	テキストの予習まとめノート、	45分
7	カリキュラムの諸形態	・カリキュラムの歴史、カリキュラムの類型とその特徴を理解する。　・教科横断的なカリキュラムの在り方をグループワークで検討する。	テキストの予習まとめノート、	45分
8	教育課程編成の基礎原理	・教育課程編成の基礎原理について理解する。　・教育内容をいかにしてデザインするかを理解する。	テキストの予習まとめノート、	45分
9	カリキュラム・マネジメント	・カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方、意義と実際を理解する。	テキストの予習まとめノート、	45分
10	教育課程と評価	・教育課程における評価の意義と評価計画について理解する。　・教育課程の評価をカリキュラムマネジメントに位置付けて理解する。	テキストの予習まとめノート、	45分
11	教育課程と主体的・対話的で深い学び	・中学校・高等学校における教育課程で、主体的・対話的で深い学びをどのように実現するかを考える。	テキストの予習まとめノート、	45分
12	社会に開かれた教育課程、特色ある教育活動	・社会に開かれた教育課程、特色ある教育活動の意義を理解する。　・教育課程における地域との連携について考える。	テキストの予習まとめノート、	45分
13	食に関する指導の計画と実践	・食に関する指導の計画を立て、模擬授業を行う。　・授業について検討し、よりよい指導に間然する・	指導案の作成	60分
14	保健指導の計画と実践	・保健指導の計画を立て、模擬授業を行う。　・授業について検討し、よりよい指導に間然する・	指導案の作成	60分
15	教育課程改革：社会の変化と教育課程	・教育課程改革の動向を理解する。　・社会の変化と教育課程の在り方について考察する。	教育課程の在り方についてのレ	120分

《専門教育科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）			科目ナンバリング	5021209200
担当者氏名	原　志津			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《授業外学習》
授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。こころについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をかいて、最終授業日に提出してください。

《テキスト》
コンパス「教育相談」　　建帛社　住本克彦編著

《学習状況・理解度の確認》
小テストやレポートはコメントをつけて返却する。　最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《参考図書》
学習指導要領(文部科学省）生徒指導提要(文部科学省）「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」滝口・田中　創元社

《備考》
教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。授業内で、カウンセリングのロールプレイやフォーカシングというセルフカウンセリングを行い、実感を持って学べるよう（アクティブラーニング）工夫している。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
		自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ。
		子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	65%
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	
授業内課題	
その他（ ）	15%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しきく」ということの心得を考える。	配布資料を読んで復習	45分
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45分
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）をおこなう。	ロールプレイの感想レポート	45分
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45分
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学び、実際に体験して学ぶ。	小テストの準備	45分
6	自分自身のテーマを知る	カウンセリングについての小テスト（30分）、自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45分
7	こころと身体	身体に異常がないのにおこる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45分
8	軽度発達障害について学ぶ	軽度発達障害について学ぶ	配布資料の復習・予習予習	45分
9	軽度発達障害について学ぶ(2)	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ	配布資料の整理	45分
10	いじめの被害者・加害者への理解と対応	学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える。	配布資料の復習	45分
11	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ	配布資料の復習	45分
12	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、ひとつの事例について知る	映像教材に対する感想レポート	45分
13	不登校の子どもへの理解と対応	どのような態度で子どもたちに向き合えば、不登校の子どもたちの問題解決につながるのか考える。	配布資料の予習と演習の復習	45分
14	教師のメンタルケア・教育と福祉の連携	子どもたちの心のケアと教師のメンタルケア・教育と福祉の連携-スクールソーシャルワーカーの役割を知る。	配布資料の予習と復習	45分
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	生徒指導論			科目ナンバリング	5021209600
担当者氏名	岡田　広示			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
受講者は、学習指導と並ぶ学校における重要な教育活動である生徒指導は、児童生徒一人一人の人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、全ての教育活動を通じて行われるものであることを理解し、教師としての対応力を身につける。

《授業外学習》
テキストの生徒指導提要のページをしっかりと呼んでおくこと。

《テキスト》
生徒指導提要（平成22年3月　文部科学省）

《学習状況・理解度の確認》
毎回のコメント用紙に記入された事柄について、重要と考えられるものについて講義のはじめに解説する。

《参考図書》
子どもの社会性を育む積極的生徒指導（中村豊著、学事出版）

《備考》
student teaching theory

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	生徒指導の意義や原理について理解する
		全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について理解する
		生徒指導上の課題を把握しチームとしての学校を確立し外部関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	40%
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	積極的生徒指導の意義と原理		60分
2	生徒指導と学習指導	生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について	生徒指導提要P23	60分
3	校内における組織体制の在り方	学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて	生徒指導提要 P88-89	60分
4	集団と個	全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について	生徒指導提要 P75-77	60分
5	生徒指導に関する調査結果	学校における問題行動の現状と課題	文部科学省HP	60分
6	事例研究	いじめについての具体的な対応策の検討	生徒指導提要 P173-174	60分
7	事例研究	不登校等について、家庭訪問を含めた対応策の検討	生徒指導提要 P187-189	60分
8	事例研究	児童虐待について児童相談所や警察との連携を通した対応策について	生徒指導提要 P212-217	60分
9	児童生徒理解と生徒指導	発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて LD,ADHD,ASD等の児童生徒と集団の関り	生徒指導提要 P42-537	60分
10	講義と事例研究	校種間連携の現状と課題	生徒指導提要 P75-77	60分
11	生徒指導と連携	児童生徒の問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の現状と課題　（青少年の行動の理解―インターネットと性）	生徒指導提要 P178-179	60分
12	特別活動との関連	生徒指導と学級・学校経営について	生徒指導提要 P138-141	60分
13	法規に準じた生徒指導	問題行動に対する懲戒と関連法規にについて		60分
14	生き方としての生徒指導	キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方		60分
15	まとめと試験	自尊感情を育む積極的生徒指導の意義についてのまとめと確認のための試験		60分

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論			科目ナンバリング	5021209892
担当者氏名	吉永　潤			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
教育方法・技術及び教育評価に関する基礎的理論・概念の理解を踏まえ、現代社会が求める主体的、対話的で深い学びの実現を生む教育方法と技術についての理解、とりわけ情報機器の教育的機能についての理解を深める。以上の上で、学習指導案の作成をグループ作業として体験し、成果を相互に交流・批評する。

《授業外学習》
グループで学習指導案作成を行うため、授業外でのグループワークを要する。

《テキスト》
WEBにて資料配布を行う。

《学習状況・理解度の確認》
各授業後に小レポートを課する。

《参考図書》
吉永潤『社会科は「不確実性」で活性化する―未来を開くコミュニケーション型授業の提案』東信堂、2015

《備考》

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教育方法の基礎的理論を理解し、教育実践での活用が行える。
		現代の教育実践に求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するための教育方法の重要性を理解ししている。
		深い学習と対話的授業の実現のために情報機器の活用方法が理解でき、実践活用できる。
		学習者自身の情報機器活用能力育成と情報モラル形成の意義が理解できる。
		以上を踏まえて学習指導案を構成でき、その相互批評を通じて授業改善の重要性が理解できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	0%
授業内課題	20%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	授業と学びの質を左右する教育方法・教育技術・情報機器活用	授業内容の復習	45分
2	教育方法の基礎的理論と概念	教授と学習、教育方法と教育内容、問題解決学習と系統学習	授業内容の復習	45分
3	現代に求められる教育方法１	知識・理解とその主体的・実践的活用能力の育成	授業内容の復習	45分
4	現代に求められる教育方法２	対話・コミュニケーション能力と協同的問題解決能力の育成	授業内容の復習	45分
5	授業と学習を構成する環境１	学習素材としての教科書、教材、学習者の多様な既有経験	授業内容の復習	45分
6	授業と学習を構成する環境２	情報機器の意義とその活用法	授業内容の復習	45分
7	学習と授業の評価１	教育目標と学習評価の不即不離性、多様な学習評価の考え方と方法	授業内容の復習	45分
8	学習と授業の評価２	学習評価を通じた授業の評価と改善のサイクル	授業内容の復習	45分
9	対話的授業を生む教育方法1	多様性と対話を生み出す教材構成と問い・課題設定	授業内容の復習	45分
10	対話的授業を生む教育方法２	学びを可視化・共有・定着させる板書と情報機器活用	授業内容の復習	45分
11	対話的授業を生む教育方法３	学習者による情報機器活用能力の育成と情報モラルの形成	授業内容の復習	45分
12	学習指導案の開発と交流１	グループ形成、教科選定、教材・指導案構成の話し合い	グループワーク	90分
13	学習指導案の開発と交流２	学習指導案プレゼンテーション１	グループワーク	90分
14	学習指導案の開発と交流３	学習指導案プレゼンテーション２	グループワーク	90分
15	講義全体のまとめ	学習指導案の相互評価と授業全体の振り返りディスカッション	授業内容の全体に関する復習	45分

《専門教育科目》

科目名	教職概論			科目ナンバリング	5021210100
担当者氏名	岡田　広示			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	1　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》
教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業外学習》
配布された資料を読んでレポートを作成する。

《テキスト》
『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3)』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房 『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ７）』古田薫・山下晃一（編著）、ミネルヴァ書房 その他必要に応じて資料を配布します。

《学習状況・理解度の確認》
毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《参考図書》
授業中に指示します。

《備考》
必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史的変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
		教員養成と教員免許制度について理解している。
		教員の任免と服務について理解している。
		教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
		教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	10%
レポート	20%
発表・実技	5%
授業内課題	5%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史的変遷	・教職観の歴史的変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。　・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務,校務分掌,チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウンタビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。　・学校の果たすべきアカウンタビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分ついて理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取組みを行う必要があるかをグループディスカッションを通して考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解した上で働き方に関する課題についてディベートを行い深める。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事―やりがいと悩み―	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。　・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論			科目ナンバリング	5021211200
担当者氏名	杉田　律子			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《テキスト》

廣瀬由美子・石塚謙二編「特別支援教育」ミネルヴァ書房

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。 オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の難聴幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として，最低限必要な障害等の概要を理解できる。
		子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
		外国籍や貧困など特別の教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	60%
小テスト	
レポート	
発表・実技	20%
授業内課題	10%
その他（ ）	10%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	特別支援教育の理念と制度（1）教育の変遷、インクルーシブ教育	特別支援教育の歴史的変遷。インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF,合理的配慮	学習のまとめプリント	45分
2	特別支援教育の理念度制度（2）	特別支援教育の理念、制度 特別支援学校と通常学校。アクティブラーニング	事前学習プリント	45分
3	通常の学級担任の気づきとアセスメント	通常学級の特別支援教育の重要性。学級経営。子どものアセスメント。	学習のまとめプリント	45分
4	発達障害の心理特性（1）LD.ADHD	発達障害（LD.ADHD）の特性理解と基本的な対応。発達の特性に応じた合理的配慮	事前学習プリント	45分
5	発達障害の心理特性（2）ASD、知的障害	知的障害と発達障害（自閉症スペクトラム障害ASD）の特性理解と基本的な対応。発達の特性に応じた合理的配慮	事前学習プリント	45分
6	二次障害の理解と対応	通常学校における特別支援教育の課題。発達障害の関連症状と精神障害。二次障害への対応。	学習のまとめプリント	45分
7	様々な障害の理解と対応／反転授業	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱・病虚弱の特性の理解と基本的な対応。反転授業	事前学習プリント	45分
8	特別な教育的ニーズへの理解と対応／障害理解教育	外国につながる子どもの支援、貧困、児童虐待など特別な教育的ニーズの理解と基本的な対応。	事前学習プリント	45分
9	特別の指導「自立活動」	障害の捉え方と自立活動およびその実態。アクティブラーニング。合理的配慮を前提にしたクラス運営を実現するため、障害理解教育について理解する	事前学習プリント	45分
10	「通級による指導」での指導の実際	通級による指導仕組みと教育課程、指導。事例検討。アクティブラーニング	学習のまとめプリント	45分
11	特別支援学級での指導の実際	特別支援学級の仕組みと教育課程、指導。事例検討。アクティブラーニング	事前学習プリント	45分
12	ICT機器の活用と指導の実際	特別支援教育におけるICT活用の意義	事前学習プリント	45分
13	個別の教育支援計画と個別の指導計画	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成の実際	学習のまとめプリント	45分
14	特別支援教育コーディネーター校内支援体制	特別支援教育コーディネーター校内支援体制についての事例検討。アクティブラーニング。	事前学習プリント	45分
15	関係機関や保護者との連携。	保護者との連携とその支援。関係機関との連携	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	道徳教育の理論			科目ナンバリング	5021211700
担当者氏名	林　敦司			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	2　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

道徳教育の歴史と原理を学ぶことを通して、その意義を理解するとともに、道徳性の発達に関する理論を学び、道徳教育の目標や内容を把握する。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現するための多様な指導方法を用いた授業構想力と実践的指導力を身に付ける。さらに、小・中学校の道徳科や高等学校における道徳教育など広い視野から具体的な取組を分析・検討することで、学校教育活動全体で進める道徳教育の在り方を考察する。

《テキスト》

『中学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　特別の教科 道徳編』文部科学省、教育出版

《参考図書》

1.『道徳教育を学ぶための重要項目１００』貝塚茂樹・関根明伸　編著、教育出版　　2.『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄　編集、教育開発研究所

《授業外学習》

・事前にテキストの指定箇所を通読し、疑問点をノートに書くなど、課題意識を持って授業に臨むこと。
・授業後に資料を見直したり、ノートを整理したりするなど、自己学習による補充を行なうとともに、授業中での発表や話合いから得られた学びをもとに、授業構想や学習指導案の改善を図ること。
・本講義の道徳教育の研究が、自身の専門分野に生かされるように積極的に学習を進めてほしい。

《学習状況・理解度の確認》

レポートなどの提出物にコメントを付して指導するとともに、返却後に要点の解説を行なうことで知識の確実な定着を図る。

《備考》

模擬授業の演習ではグループによる討議や発表を実施するので、課題意識を持って授業に参加してほしい。担当者は教諭及び管理職として学校勤務や教育実習指導歴のある実務経験者である。 Theory of Moral Education

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	履修カルテ参照	道徳の歴史や意義を踏まえて、児童生徒の発達段階を踏まえた道徳教育について主体的に考えることができる。
○	履修カルテ参照	道徳教育における要としての道徳科の役割を理解し、カリキュラム・マネジメントについて説明できる。
◎	履修カルテ参照	道徳教育を推進するための役割を理解し、職務や専門性と関連づけて考えることができる。
○	履修カルテ参照	教材活用・指導過程・指導方法などを理解して、学習指導案を作成することができる。
◎	履修カルテ参照	アクティブ・ラーニングを踏まえた道徳科の授業づくりと評価について説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	50%
発表・実技	0%
授業内課題	30%
その他（ ）	20%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	近代日本の道徳教育の変遷と教科化の背景	我が国の道徳教育の変遷と世界の道徳教育の動向を踏まえながら、現状と課題、道徳科に求められている問題を考察する。	ﾃｷｽﾄp. 1～p. 7通読	45分
2	道徳教育の意義と道徳性の発達	学校教育全体で取り組む道徳教育の意義と、児童生徒の心の成長課題について理解する。	配布資料通読	60分
3	学習指導要領の内容と道徳科の意義	学習指導要領解説の理解を深め、幼・小・中・高の系統性も踏まつつ、道徳科の誕生による新しい道徳教育を構想する。	ﾃｷｽﾄp. 8～p. 18	60分
4	道徳科の内容	内容項目の構成や系統性、取扱いについて理解し、道徳科の年間指導計画の作成方法や手順について考察する。	ﾃｷｽﾄp. 19～p. 25	60分
5	道徳科の指導と教材活用	児童生徒が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の活用について考察する。	ﾃｷｽﾄp. 76～p. 85 配布資料通読	60分
6	カリキュラム・マネジメントと指導計画	道徳教育における指導計画中の道徳科の役割を知り、カリキュラム・マネジメントについて具体的に理解する。	ﾃｷｽﾄp. 70～p. 75	60分
7	道徳教育と他の教育活動との関わり	中学校・高等学校の道徳教育について、保健体育科・健康教育・食育など様々な教育活動との関連を踏まえて理解する。	配布資料通読	60分
8	道徳科の評価とアクティブ・ラーニング	道徳科の評価の在り方と方法を理解し、アクティブ・ラーニングを踏まえた学習指導案を作成する。	ﾃｷｽﾄp. 109～p. 118	75分
9	予備日			45分
10	予備日			45分
11	予備日			45分
12	予備日			45分
13	予備日			45分
14	予備日			45分
15	予備日			45分

《専門教育科目》

科目名	特別活動・総合的な学習の時間			科目ナンバリング	5021211800
担当者氏名	岡本　洋之			担　当　形　態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1　・　選択	開講年次・開講期	3　年　・　Ⅰ期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習（探求）の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を身に付けるとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習（探求）の時間は時代の要請に応じて近年力が入れられている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説 高等学校学習指導要領（同）とその解説 （※ただし購入する必要はない。必要な分を授業中にプリントして配布する。また文部科学省サイトよりダウンロードすることも可能である）

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次回の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamotoh@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

中学校新学習指導要領の展開　特別活動編／総合的な学習編（明治図書）　高等学校新学習指導要領の展開　特別活動編（同）

《備考》

授業においてはディスカッションを行う。また担当者は、教員として高等学校勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や"チーム学校"の視点を持つ。
		学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要な知識や素養を体得する。
		総合的な学習/探求の時間での社会・生活課題探究のための指導計画作成/指導法/評価の知識技能を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	
小テスト	20%
レポート	60%
発表・実技	20%
授業内課題	
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90分
2	特別活動（1）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容	学習指導要領を読む	90分
3	特別活動（2）	教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領解説を読む	90分
4	特別活動（3）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質	現場が抱える問題を考える	90分
5	特別活動（4）	「特別活動」における評価と改善活動	現場の課題を考える	90分
6	特別活動（5）	集団活動	実践例を調べてくる	90分
7	特別活動（6）	家庭・地域住民や関係機関との連携	先進例を調べてくる	90分
8	特別活動（7）　総合的な学習（探求）の時間（1）	「特別活動」に関する総括　「総合的な学習（探求）の時間」の意義と教育課程における役割	学習指導要領を読む	90分
9	総合的な学習（探求）の時間（2）	学習指導要領における「総合的な学習（探求）の時間」の目標、各学校における目標及び内容の設定	学習指導要領解説を読む	90分
10	総合的な学習（探求）の時間（3）	年間指導計画の作成	実践例を調べてくる	90分
11	総合的な学習（探求）の時間（4）	単元計画の作成	先進例を調べてくる	90分
12	総合的な学習（探求）の時間（5）	探究的な学習の過程と方法	現場が抱える問題を考える	90分
13	総合的な学習（探求）の時間（6）	「総合的な学習（探求）の時間」の評価	現場の課題を考える	90分
14	総合的な学習（探求）の時間（7）	「総合的な学習（探求）の時間」に関する総括	自分の学校生活を振り返る	90分
15	本授業全体の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探求）の時間」と「生きる力」	本授業全体を振り返る	90分

《専門教育科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）			科目ナンバリング	5052200102
担当者氏名	服部　紀代			担　当　形　態	複担
授業方法	実習	単位・必選	5　・　選択	開講年次・開講期	4　年　・　通年

《授業の概要》

実習では，子供や教職員と直接かかわり，大学で学んだことを教育の実践の場面において検証していくことができることを目的とします．事前指導では，養護教諭の専門的知識・技術，教員としての知識等を再確認し，事後指導では，実習記録を参考にしながら，自己の獲得した知識や新たな課題を振り返り，理想の養護教諭像を描くことのできることを目指します．

《授業外学習》

準備学習に加えて
・からだや心の発達,仕組みに関する書籍を読んでみる.
・課題について事前学習をして、グループワークに参加する.
・既習科目のﾃｷｽﾄや資料を参考にして知識・技術の確認と定着に努める.

《テキスト》

『改訂 養護実習ﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ』大谷尚子・中桐佐智子 東山書房 2015,『児童生徒等の健康診断ﾏﾆｭｱﾙ』文部科学省ｽﾎﾟｰﾂ・青少年局学校健康教育課監修（財）日本学校保健会 2015

《学習状況・理解度の確認》

・個別指導の中で知識と技術の定着を図る．・質問はいつでも受け付ける.

《参考図書》

『新訂版学校保健実務必携第5次改訂版』第一法規,『小学校学習指導要領解説体育編』文部科学省,『中学校学習指導要領解説保健体育編』文部科学省

《備考》

Clinical Practice In School Health Nursing ・養護教諭1種免許取得の意志を明確にし,主体的・意欲的に実習に臨む．・実習先では実務経験者による指導を受ける．・科目担当者は，養護教諭の実務経験者である

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	履修カルテ参照	養護実習要項の実習目標を目標とする.
○	履修カルテ参照	事前指導では養護教諭の専門的知識・技術等について説明できる.
○	履修カルテ参照	養護実習では教育現場での実践を通して目標達成を実行できる.
○	履修カルテ参照	事後指導では自らの振り返りを行うとともに学びと課題を共有する.

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　　験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	20%
授業内課題	40%
その他（ ）	40%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1		詳細は養護実習要項参照		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）			科目ナンバリング	50231A5300
担当者氏名	服部　紀代			担　当　形　態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2　・　選択	開講年次・開講期	4　年　・　Ⅱ期

《授業の概要》
養護教諭として求められる資質である①生命を守り育てる使命感や責任感　②確かで実践的な管理能力、指導力　③こころと体を見つめた児童生徒理解　④保護者を含めた校内外組織の中で連携するコーディネーター的能力の４つの視点から外部講師による講義・演習、ディスカッション等を通して体験的に学ぶ。学校現場に即した授業内容を展開していく。

《授業外学習》
自己課題をもとに予習復習を行うこと。

《テキスト》
オリジナルプリント、適宜紹介

《学習状況・理解度の確認》
講義・演習への積極的参加（５０％）　課題レポート、発表（５０％）
レポートはコメントを付して返却し、発表には講評をする。

《参考図書》
適宜紹介する。

《備考》
Practical Seminar for Teaching Profession (School Nurse)　・スケジュールは別途連絡。健康システム学科と看護学科合同授業。　・科目担当者は養護教諭の実務経験者である。また、経験豊富な実務経験者を講師とし、アクティブラーニングを活用した授業を展開する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	履修カルテ参照	使命感や責任感の上に立った実践的指導力を有する教員としての資質の構築、確認を行う。
○	履修カルテ参照	体験、演習、討議、発表をとおして教育課題を深く考えることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試　験	
小テスト	
レポート	40%
発表・実技	10%
授業内課題	50%
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習･復習等の内容	予習･復習等の時間
1	オリエンテーション①健シスのみ	授業の概要と到達目標、評価の方法を理解する。これまでの学習の振り返り、および履修カルテの確認をする。	課題レポートの作成	60分
2	オリエンテーション②看護学科と合同	養護コースの授業の概要と到達目標、評価の方法を理解する。	実習の学びのまとめ	60分
3	実習の学びの振り返り：看護学科と合同	養護実習の学びを、健シスと看護の養護コース全体で共有し、自身の学びを深める。	実習の学びのまとめ	60分
4	養護教諭の専門性①-1	保健教育の実際を体験的に学ぶ(講義、演習)　：ライフスキル教育	課題レポーとの作成	60分
5	養護教諭の専門性①-2	保健教育の実際を体験的に学ぶ(講義、演習)　：ライフスキル教育	課題レポートの作成	60分
6	養護実習の専門性②-1	保健教育の実際を体験的に学ぶ(講義、演習)　：包括的性教育	授業終了時に課題配付（予習・	60分
7	養護教諭の専門性②-2	保健教育の実際を体験的に学ぶ(講義、演習)　：包括的性教育	授業終了時に課題配付（予習・	60分
8	保健室経営の実際①-1	保健室経営の実際を理解する(講義、演習)：中学校	授業終了時に課題配付（予習・	60分
9	保健室経営の実際①-1	保健室経営の実際を理解する(講義、演習)：中学校	授業終了時に課題配付（予習・	60分
10	多職種連携①	学校現場の多職種とその連携を理解する(講義、演習)　：SSW	授業終了時に課題配付（予習・	60分
11	多職種連携②	学校現場の多職種とその連携を理解する(講義、演習)　：SSW	授業終了時に課題配付（予習・	60分
12	保健室経営の実際②-1	保健室経営の実際を理解する(講義、演習)：小学校	授業終了時に課題配付（予習・	60分
13	保健室経営の実際②-2	保健室経営の実際を理解する(講義、演習)：小学校	授業終了時に課題配付（予習・	60分
14	養護実習の学びの発表・看護3年交流会：看護２コマ、健シス１コマ	養護実習の学びをまとめ、プレゼンテーションを行う。	授業終了時に課題配付（予習・	60分
15	まとめ：健シスと看護で別々で実施	チェック表による振り返り、および履修カルテの確認、提出を行う	学習の整理	60分